

東京2025世界陸上競技選手権大会 開催基本計画（概要版）

資料 2 - 1

第1章 大会概要

正式名称	東京2025世界陸上競技選手権大会	競技会場等	メインスタジアム	国立競技場
期間	2025年9月13日～21日（9日間）		ウォームアップ会場 練習会場	代々木公園陸上競技場
参加国	約210か国・地域			東京体育館陸上競技場
参加選手数	約2,000人（見込み）			東京大学陸上競技場
種目数 （予定）	49種目（男子24種目、女子24種目、男女混合1種目）		大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場	
	100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、3000m障害物、女子100mハードル、男子110mハードル、400mハードル、4×100mリレー、4×400mリレー、混合4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、女子七種競技、男子十種競技、20km競歩、35km競歩、マラソン			

第2章 基本方針

ミッション

多くの人々に夢や希望を届ける

今後の国際スポーツ大会のモデルを示す

大会開催ビジョン

東京ドリーム 東京ブランド 東京モデル

大会メインカラー

江戸紫（えどむらさき）

（参考）カラーコード

7 4 5 3 9 9

Red:116 Green:83 Blue:153



東京2025世界陸上競技選手権大会 開催基本計画 (概要版)

第3章 大会の成功と未来へ紡ぐレガシー

東京ドリーム

アスリートが活躍する最高の場を創出

満員の国立競技場の声援の下で、自らのベストを尽くすことができる最高の環境を提供します。



©Getty Images for World Athletics

多様な人々の大会への参画

年齢・障害の有無に関わらず誰もが、スポーツの素晴らしさ、多様な価値観を認めあう大切さなどが実感できるよう、大会への参画を推進します。



©Getty Images for World Athletics

東京ブランド

街全体でのおもてなし

成熟した社会インフラや温かいおもてなしで歓迎し、東京の魅力を体験できる取組を展開します。



戦略的なPR

様々な広報媒体と連携した広報や気運醸成の取組、大会ロゴを用いた広報PRを展開し、大会の魅力を効果的に発信します。



東京モデル

こどもたちへの観戦機会等の提供

未来を担うこどもたちに大会を観戦する機会を提供し、夢や希望を育む契機にしていきます。



環境負荷の低減

省エネの推進、再エネの活用、環境に配慮した輸送方法の取組等を通じて、脱炭素社会の実現に寄与していきます。



スポーツ文化の
広がり

次世代への価値の
継承

ボランティア文化の
一層の発展

未来につなぐ
世界との絆

環境配慮行動の
気運醸成

持続可能な
大会モデル

東京2020大会のレガシーも引き継ぎ、さらに、東京2025デフリンピックとの連携・展開により**共生社会の実現**に繋げていく。

第4章 組織・運営体制

公平・公正、透明性を確保し、フェアネスを体現した組織運営を徹底

○組織体制について

○運営体制(ガバナンスの確保の取組)について

第5章 大会運営

競技運営	アスリートが安全かつ最大限のパフォーマンスを発揮できる競技環境の整備
会場運営	アスリートセンタードの視点に立つとともに観客をおもてなしの心で迎える会場運営
広報	大会の成功に向けて、大会の価値を広く世界へ発信するための広報活動
大会サービス	大会運営に必要な不可欠な出入国や宿泊、輸送、警備、飲食などのサービス提供